

コラム2 ごみ“0（ゼロ）” 上勝町のゼロ・ウェイスト運動

「ゼロ・ウェイスト」を御存じでしょうか。1996年にオーストラリアのキャンベラで世界初の宣言が行われて以来、北米や欧州等の各都市に広がっていったもので、出てきた廃棄物をどう処理するかではなく、そもそもごみを生み出さないようにしようという考え方です。

2003年に日本の自治体として初めて「ゼロ・ウェイスト宣言」を行ったのは、徳島県の上勝町です。上勝町は人口規模の小さな自治体ですが、その利点を生かして様々な取組を成功させています。ごみを出さない生活とはどのようなものか。同町の取組を見ていきましょう。

同町には、日常的にごみを回収する「ごみ収集車」はありません。町内に1か所存在するゴミステーションに、住民自らがごみを持ち込みます。ごみの分別は13種類45分別。ゴミステーションには職員が常駐しており、分別方法などがわからなければ、聞くことができます。分別されたごみの多くはその性状に合わせ、リサイクルされます。

また、ゴミステーションには、町民が不用物を持ち込み、町内外の誰でも持ち帰ることができる「くるくるショップ」があり、リユースの取組も行われています。

このような取組を進めてきた結果、平成28年度にはリサイクル率80%を達成し、平成30年度は生活系ごみ1人1日当たり搬入量404g、リサイクル率80.7%でした。（全国平均918g、19.9%）



上勝町ゴミステーション



上勝町くるくるショップ

このような取組は上勝町の利点を生かしたのですが、ゼロ・ウェイスト運動は上勝町でなければ行えないものではありません。例えば、同じくゼロ・ウェイスト宣言をしているアメリカのサンフランシスコは、人口が80万人以上の都市ですが、80%以上のリサイクル率を達成しています。

完全なごみゼロを達成するには、現在リサイクルが困難なものの素材や製品設計を変えるといった生産者の協力や、新たなリサイクル技術の開発等が求められますが、私たち消費者ができること、例えば、物の買い方やごみの出し方、リユースの創意工夫を行えば、ごみの量はゼロに近づいていきます。

みなさんは、今日ごみを出しましたか。ごみの減量について、できることから始めてみませんか。